

ダイジェスト

平成22年度

幼児(3・4・5歳児)をもつ保護者の子育てに関する調査のまとめ

15年の推移をふまえて

子育てや家庭教育について みんなで考えてみませんか？



福岡県教育委員会では、平成22年度に「幼児(3・4・5歳児)をもつ保護者の子育てに関する調査」を実施しました。

この調査は平成7年度から同じ幼稚園・保育所(園)の保護者に御協力いただき5年ごとに実施しているものです。今回で4回目になります。

今回の調査や15年の推移をもとに、現在の親の子育ての実態や思いをまとめました。

これからの子育てや家庭教育の在り方を探るヒントとして活用していただければ幸いです。

対象者：県下14幼稚園、22保育所(園)の3・4・5歳児の父親、母親
有効回答数：父親1140名 母親1901名 合計3041名

※グラフについては、無回答の数を省略しています。

※H7年度～H22年度の経年比較データは4・5歳児の親のデータです。

幼児期から規則正しい生活習慣を 身に付けさせましょう。



朝ごはんを「毎日食べる」子どもは9割近くであり、平成17年度と比べるとその割合が高くなっています。

幼児にとって十分な睡眠をとるためには、9時前に寝る必要があります。ところが、平成17年度同様、9時前に寝ている幼児の割合は3割に満たないということがわかりました。

【図1】のように、就寝時間が遅くなるほど「自分で起きる」「毎日朝食をとる」割合が低くなっていることがわかりました。

図1

就寝時刻と自立起床・毎日朝食をとることとの関係
(平成22年度 調査より)



◇「早寝→早起き→朝ご飯」の生活習慣リズムを整えることは、1日の活発な活動のためには最も大切なことです。また、幼児期に獲得した生活習慣はその後の成長・発達に大きな影響を及ぼします。「夜9時前に寝る→朝早く起きる→朝ご飯をきちんと食べる→日中活発に活動する→疲れて早く寝る」という望ましい生活リズムの確立に向けて、ひとつずつ実践していきましょう。

テレビ・ゲームの時間を減らし、親子のコミュニケーションの時間を増やしましょう。



図2

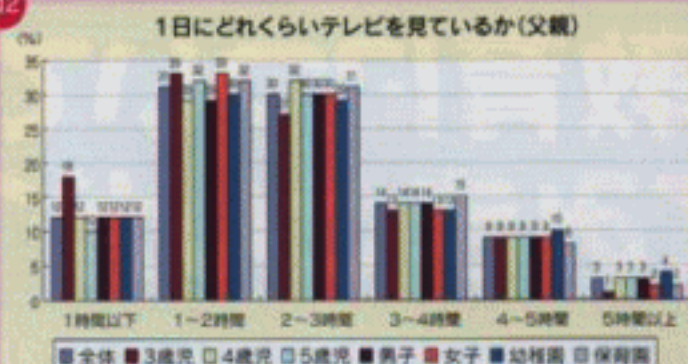
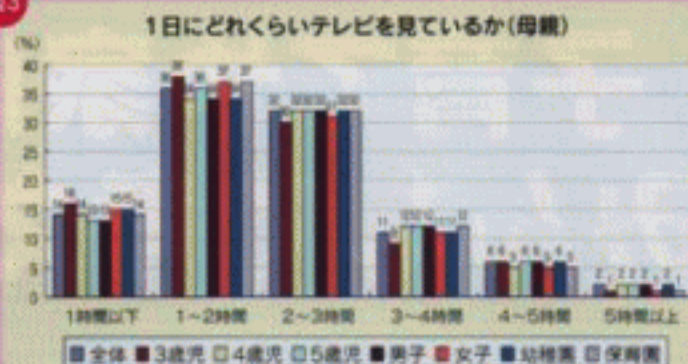


図3



テレビの視聴時間は、全体的には減少傾向にあります。長時間見る子どもが増加傾向にあることが今回の調査でわかりました。また、食事中に「いつもテレビを見ている」「時々見ている」という家庭は全体の3分の1であり、テレビが空気のような存在になっているのではないかと心配されます。

図4

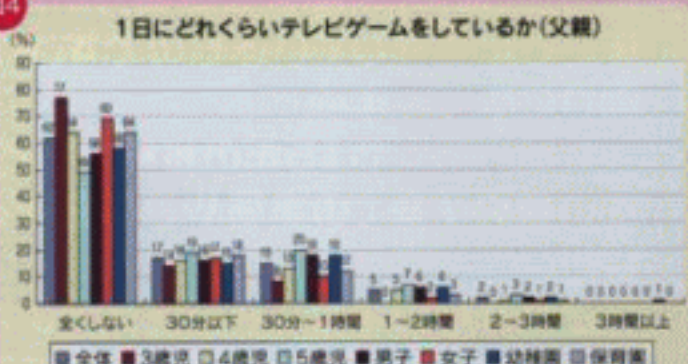
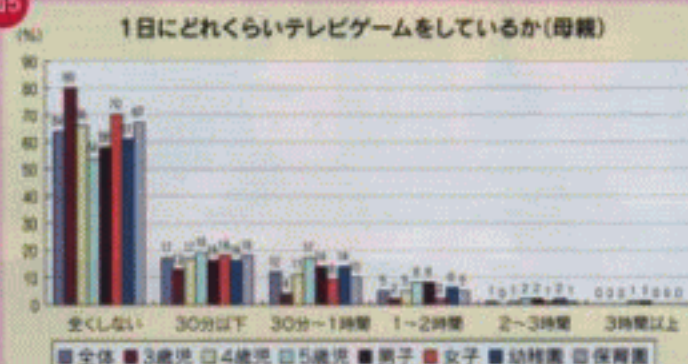


図5



年齢が上がるほど、ゲームをしている割合が高くなり、5歳児では約半数がゲームをしているということがわかりました。また、割合は少ないのですが1日に1時間以上ゲームで遊んでいる子どもが全体の5%、2時間以上の子もいます。

◇「食事の時はテレビを消す」「時間を決めてゲームで遊ぶ」等、子どもが生活の中でメディアとの接触を主体的にコントロールできるような環境を整えましょう。

子どもたちに、たくましく豊かな心をはぐくむ体験を!



「育児上、今最も気を配っていることは何か」については、前回調査から1位が「基本的生活習慣」から「思いやり」に移行しています。

別の設問「育児における不安や悩み」の上位に「集団生活」があることから、親子とも人間関係の難しさを身をもって感じていることの現れではないかと推察されます。

◇たくましく豊かな人間関係を築く能力を培うためには、幼児期から葛藤・失敗・成功等、様々な体験を積み重ねることが必要です。外遊び、お手伝い、自然体験、地域や園での行事等、親子で多様な人と触れ合う体験活動の充実が望まれます。

温かな親子の交流は まず、ほめることから始めましょう。



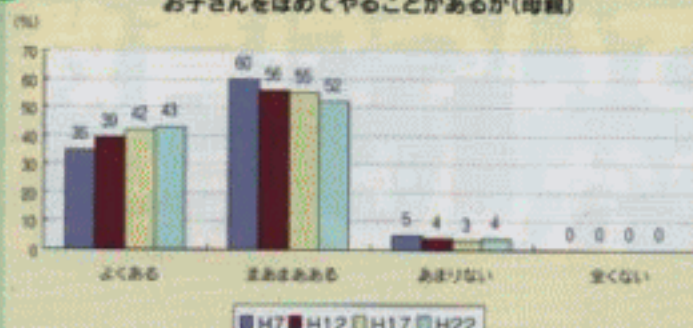
図8

お子さんをほめてやることがあるか(父親)



図9

お子さんをほめてやることがあるか(母親)



ほめことが「よくある」という回答は父母共に増加し、子どもの自尊感情を高める上で、「ほめる」ことの重要性が啓発や情報によって知られたことが推察されます。

図10

スキンシップをしているか(父親)

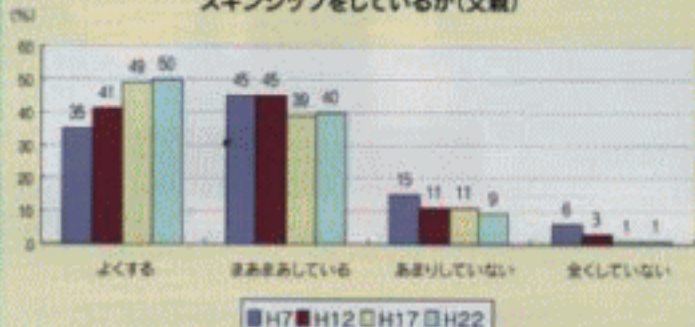
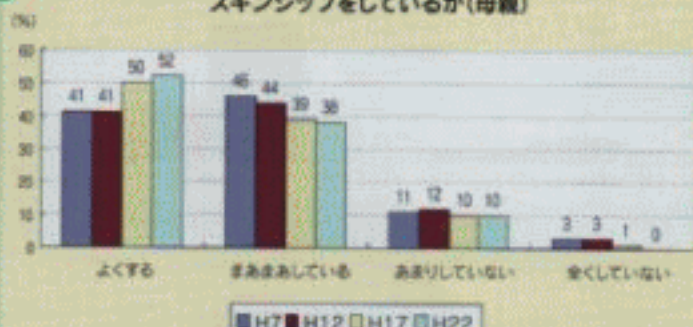


図11

スキンシップをしているか(母親)



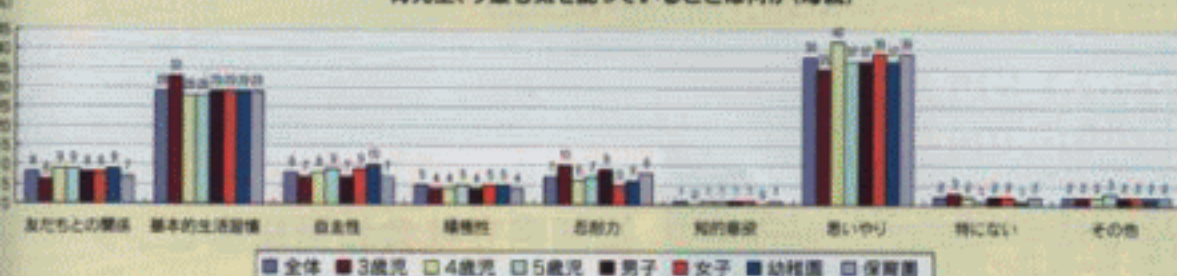
この15年間でスキンシップの大切さが理解され熱心な親の姿がみられました。また、父親の参画の意識や実態の向上も調査結果として示されています。

◇日常の忙しさの中で、子どもに「待つ」と言わざるを得ない時もあるでしょうが、その分、できるときにはしっかり向き合い、温かな親子の交流を質的に深めていきましょう。親子での読み聞かせ等はその良い機会となります。

育児上、今最も気を配っていることは何か(父親)



育児上、今最も気を配っていることは何か(母親)



子どもとともに育つ
親をめざして



地域ぐるみで親子を支える取組を!



図12

お子さんのしつけに自信があるか(父親)

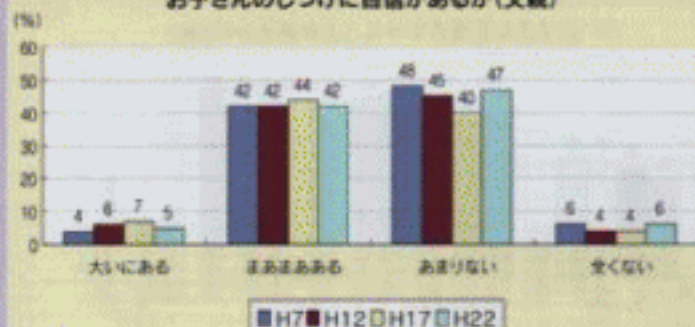
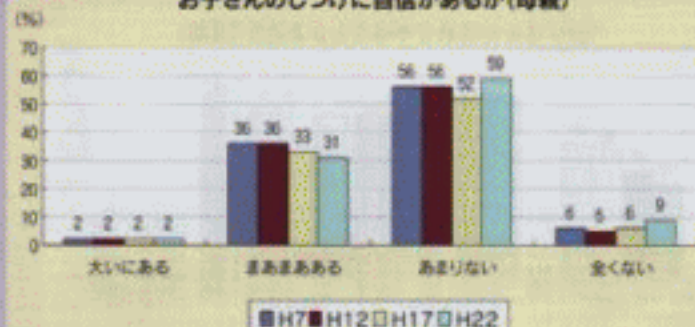


図13

お子さんのしつけに自信があるか(母親)



父親の育児参加は実質的に進んできている実態がみられましたが、母親における「しつけに自信がない」というマイナスの自己評価は減少していませんでした。

図14

「子育ての楽しさ感」と「子育てのイライラ感」
「子育ての孤立感」との関係
(平成22年度 調査より)

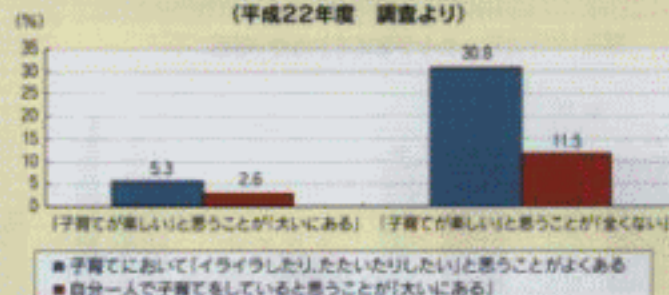


図15

「イライラして子どもをたたいたりしたいと思うことがよくある」
親の「子育ての自信」に関する割合
(平成22年度 調査より)



「子育てが楽しい」と思う割合は父母とも増加し、今回の調査では9割を越えています。ただし、「楽しくない」という親も1割程度存在し、この点配慮が必要です。

【図14】のように「子育ての楽しさ感」と「イライラ感」には関連性が見られます。「子育てが楽しいと思うことが全くない」と回答した親のうち、「イライラすることがよくある」と答えた親の割合は、「子育てが楽しいと思うことが大いにある」と回答した親の約6倍となっています。

「イライラして子どもをたたいたりしたいと思う」気持ちに時々襲われる親がおよそ1割います。そして、【図15】のように「子育てに自信がない」親の場合、その割合が高くなっています。

◇子育て不安や虐待にもつながりかねない意識を軽減するため、「子育ての楽しさ」を実感でき、また悩みや不安を解消できる情報提供や場作りが必要です。地域、幼稚園・保育所(園)、行政各機関等が連携した緊急の取組が望まれます。

一人で悩まず 気軽にアクセス

- ① HP「ふくおか子育てパーク」～子育てに役立つ情報がいっぱい～
PC <http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp/>
携帯 <http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp/m>
- ② 子育ての悩みは「メール相談」～先輩ママがお受けします～
soudan@kosodate.pref.fukuoka.jp
- ③ 家庭教育相談電話「おや親電話」～専門の相談員がお受けします～
電話 092-947-3515
月曜～土曜(9:00～17:00)
※センターの休所日、第2月曜、第4土曜、祝日は除く



●編集/発行

福岡県立社会教育総合センター

粕屋郡篠栗町大字金出3350-2
電話 092-947-3512